



## 各部会を開催しました

令和6年度も残りわずかになりました。1月末にかけて各部会を開催し、今年度の事業計画について、振り返りと次年度の事業計画や内容の検討、反省会等を行ないました。やむなく天候等で中止した事業があったものの、各部とも計画どおりに実施でき、一部未到来の事業を残すのみとなっています。今年度最後の事業は福祉部主催の「そうあんの里 落語会」（別紙チラシ配布）です。宿南地区の皆さんが集い、楽しく笑って交流ができる場として計画しております。多くの皆さんの参加をお待ちしております。

体育部は村民号の行先と日程案が決まり、令和7年度に申し送りされ事業計画に反映される予定です。令和7年10月26日（日）京都宇治方面で世界遺産「宇治平等院鳳凰堂」に行きます。詳細はまだですが予定に入れておいてください。募集時にはたくさんの方のご応募をお願いします。

来年度も各部では、地区の皆様の参加しやすい内容・日程で、交流が広がるような様々な事業を計画していきます。



## 地域づくり計画策定委員会を開催

令和6年5月に全住民（小学5年生以上）アンケートを実施しました。そのアンケート結果を踏まえて10年後の宿南地区を考え、どうしていくかを地域づくり計画として策定に入りました。何度もワークショップや意見交換会を重ね、基本理念・基本方針・具体的活動等を検討しました。

この計画は新年度からスタートです。3月開催予定の臨時総会を経て印刷製本し全世帯に配布される予定です。

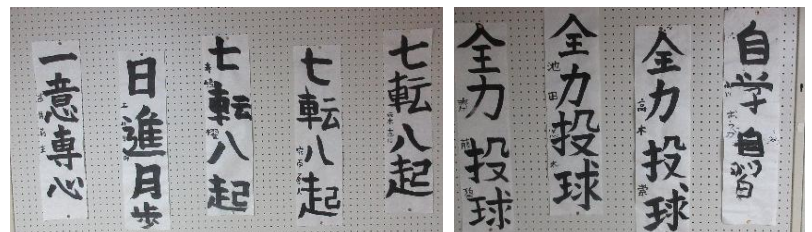
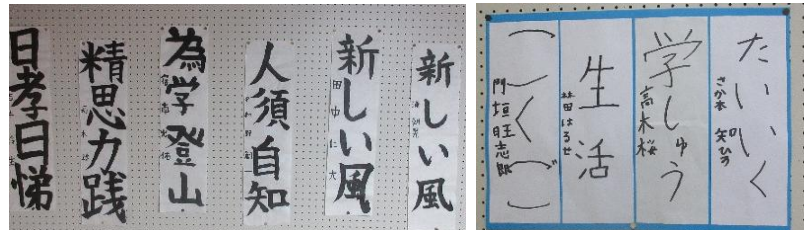
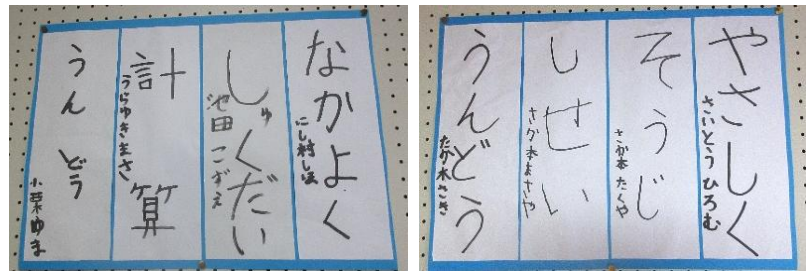
宿南地区  
地域づくり計画

宿南地区自治協議会



## 宿南小学校書初め展の開催

1月17日から2月7日までふれあい倶楽部で全校生の書初め展示があり、元気いっぱいの作品が並びました。



## 身近で見られる植物 ④④

ユキノシタ（雪の下）〈ユキノシタ科〉

今年の2月は大雪になり、草花は雪の下にかくれてしまいました。ということで、今回は「ユキノシタ」を紹介します。花の時期は、5月から6月ですが、常緑なので、雪の下でも緑の葉があります。花茎の色が白みのものと赤みのものがあり、薬用にも用いられる植物です。葉は山菜として天ぷらにもします。写真の花は5月のものです。



## “新春企画カフェ”で 絵馬を奉納 !?

1月16日（木）、20日（月）の2日間、新春企画として華やかに開催しました。

コーヒーに懐かしい駄菓子、おみくじ、そして、絵馬に願い事を書いて奉納(?)しました。いつもより多くのお客様にご来店いただき、ありがとうございました。



願いがかなうといいですね。

喫茶 ひまわり



## お知らせ

2月16日（日）第20回ボウリング大会

2月23日（日）川東ミニディ

3月16日（日）そうあんの里 落語会



## 草庵先生紹介

日記 72



草庵（右手前）は尊皇攘夷の行動を起こしていた友人の春日潜庵を訪問し「海国兵談」を参考にしながら日本をどのように守るかなどを議論した

宮崎和夫さん作

幕末、日本に開港させた欧米諸国は、次には日本と貿易することや日本の中に居留地を設けることなどを要求してきた。

「(前略) 国の進んで行く方向にはいろいろ心配な事がある」(安政4〈1857〉年10月4日)と、池田草庵は日記に書かずにはいられなかった。そのころの草庵は、海国日本は海の防衛をどのようにすべきかを説いた林子平の著した「海国兵談」を何度も読んでいた。また、清国(中国)の魏源という人が書いた「海国図志」も繰り返し読んでいた。この書物はアヘン戦争でイギリスが自分たちの国を植民地のようにしたことにより怒りや危機を感じた著者が、国のあり方を説いたものである。

さらに草庵は自分で直接情報を得るため京都、大阪に旅に出た。「西山忠次郎、桐山兵庫をあい従えて出発する」(安政5〈1858〉年1月10日)この旅は2月12日まで続き、知人や友人に会い、いろいろな情報を得た。京都では友人の春日潜庵にも会った。潜庵は尊皇攘夷の行動を起こしていて、この年の12月にはいわゆる安政の大獄で捕らえられた。草庵は読書や旅で得た見聞をまとめ、「肄業餘稿」で若者に述べている。(221条~234条)「西洋の国々は、貿易で国が成り立っている。だから、それによってもうけを得ることが多いだろう。しかし、また、おそらくそれによる弊害も免れることはできないだろう」「もうけの多いということは、それによって衣服を派手にし、飲食を豪華にし、住まいを飾る。しかし、国が永久に滅びないためのものは、もとよりこんなところにはない」「もうけを外国から得る者は、また、弊害を外国から受ける。もうけと、弊害はそれぞれ相半ばしているのだ。これは、当然の理屈である」「もうけだけ得てまだ弊害を見ない者は、これでなければ、国は成り立っていかないというだろう。しかし、後で、弊害がでてくると、おそらくほぞをかむ思いで後悔するだろう」

国のあり方を心配する草庵は外国、特に欧米の利益を第一とする国のあり方に警戒感を持っていた。

池田草庵先生に学ぶ会